

【編集後記】

第三号となる『人間文化』を無事刊行することができました。今回は論文九編、翻訳・訳注二編のご寄稿をいただきました。春学期のお忙しいなか、ご執筆いただいた先生方にはころから感謝いたします。また、人間文化研究所の事務をご担当いただいている見尾谷さんには、編集作業に必要な留意点を的確に把握いただき、ふさわしいタイミングで適切なアドバイスをいただきました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

先生方がご論考を執筆されていた頃、日本中は中学生棋士、藤井聡太四段のプロデビュー以来負けなしの連勝記録で盛り上がっておりました。プロ公式戦の連勝記録を三〇年ぶりに塗り替えて二九連勝を達成した日には号外まで配られる熱狂ぶりでした。小学生の頃から抜群の終盤力（寄せや詰みの速さと正確さ）を誇る藤井四段がここ一二年で飛躍的に棋力を向上させたのは、AI（人工知能）の活用（形勢判断を評価関数として数値化）が関係していると言われております。AIの活用により飛躍的に能力（性能）を向上させる領域は将棋に限らず、病気の診断、薬の処方など多岐にわたります。他方、AIに代替されて不要になつていく職業も増加していくことが予想されています。しかし幸いなことに、AIに奪われることのない仕事のリストには、文科系の研究者も含まれています。きわめて専門的な知識が要求され、かつ人間の営為への強い関心が原動力となっている職業だからです。わたしたちの知的好奇心が枯渇しないかぎり、この紀要の刊行は今後もまちがいに続きたいきそです。

（伊藤雅之 記）

【訂正とお詫び】

平成28年度発行の紀要『人間文化』第31号の表題（プロジェクト研究）野呂忠司・G.L. ロウ・長谷部亜子・岡田佐由里「多読が読みの流暢さに及ぼす影響」のタイトル副題に誤りがございました。誠に申し訳ございませんでした。

誤) - マインドフルネス瞑想と禅宗 -
正) - 単語認知と統語処理の視点から -

人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 第32号

平成29年9月10日印刷
平成29年9月20日発行
(非売品)

編集兼発行者
愛知学院大学人間文化研究所長 神山重彦

〒470-0195
愛知県日進市岩崎町阿良池12番地
電話 0561 (73) 1111 (内線1875番)

印刷 株式会社インシュア